# Book reviews


| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2019-03-07<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | https://doi.org/10.24517/00053563 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.




## 新刊紹介

○橋本光政：**兵庫県花の歴史探訪**　A4 判，9+209+358 頁．2013 年 12 月 14 日．（自費出版）．12,000 円＋送料．




本書は兵庫県の植物がどのように解明・研究されてきたかを，豊富な資料と写真を駆使し解説した本である。

本は，まえがき，目次，アルバム編（1~209 頁），本文解説編（1~335 頁），および索引からなる。

アルバム編では以下のタイトルのもと 1 頁ごとの小タイトルがある。兵庫県のフロラ解析に関するアルバム特集，富太郎・最初の神戸港，富太郎と“池長植物研究所”，富太郎と阪神・神戸の山野，師弟愛を超えた・川崎正と富太郎，富太郎の崇拝者・山鳥吉五郎，富太郎と芝田山草店，富太郎と氷ノ山・16m 映画，富太郎と但馬：扇ノ山，富太郎と但馬：但馬海岸と正福寺，富太郎と大塩・ノジギク群落・「ヘンクツヤ料理店ニ宿す」，大上宇市を尋ねた富太郎（コヤスノキ物語），東播磨・溜池の珍種・闘竜灘・西光寺山，丹波で踊る富太郎，富太郎と善太郎の淡路。

また，本文解説編では，次のタイトルである。ケンペルの江戸参府旅行日記，チュンベリーの航海記，シーボルトの観た日本・兵庫，牧野富太郎と兵庫県（富太郎と阪神・神戸，富太郎と播磨，富太郎と但馬，丹波で踊る富太郎，牧野富太郎と田代善太郎の淡路），兵庫県のフロラ解析は二つの博物学会が始動，もう一人の先導者・田代善太郎と兵庫県，博物学会から兵庫県生物学会・兵庫県植物誌研究会へ，人と自然の博物館＋頌栄短期大学の標本を基準に。

兵庫県は戦前より今日までアマチュアやプロの植物研究者の多い県である。そのため兵庫県で発見され，世に出た植物も多い。コヤスノキ，アリマウマノスズクサ，アリマグミ，クモノススミレ，キンキヒョウタンボク，セッピコテンナンショウ，ヒョウノセンカタバミ，マヤサンコンギク，マヤラン，ロッコウヤナギ等である。それらの発見史や採集者などの情報は，県外の者にも有益な情報である。

よくもこれだけの資料を集めたものだと感心する。特に，手紙類は多い。話題となっている植物はかならずきれいなカラー写真があるため，読者には理解し易い。登場する人物も写真があるため，以前名前だけ既知の人も，その写真をみて親しみがもてる。

本書ではアルバム編と本文解説編で，それぞれ 1 頁から頁数が振られている。索引も分かれている。両者を統一した方が良かったように思う。本の中で登場する学名はほとんどイタリックにされているが，命名者までイタリックになっているのはどうかと思われる。付録としての文献目録には，頁数の記載漏れがある。

著者は兵庫県養父郡養父町（現在養父市）の出身で，金沢大学理学部生物学科を卒業後，大学院修士課程に進学され，「白山のフロラ」という研究課題で研究された。その後，兵庫県に戻り，県立高等学校の教諭から，県立自然系博物館（現在の人と自然の博物館），教育研究所を経て，県立学校長で定年を迎えられ，現在は兵庫県産維管束植物の調査・研究に没頭されている。

本はサイズが大きく，印刷はきれいで，装丁も良いが，紙質が全頁高級アート紙のため，非常に重い。兵庫県 1 県の植物研究の歴史ではあるが，明治以降西洋近代分類学を導入し発展させてきた日本の植物分類学を知る手立てともなりうる。購入希望者は下記の著者に手紙かメールで申し込むとよい。〒670-0081 兵庫県姫路市田寺東 4-12-10　E-mail: hashi0818@ nifty.com. 橋本光政宛　（鳴橋直弘）

○林　将之：**山溪ハンディ図鑑 14　樹木の葉**　A5 変形判，760 頁．2014 年 4 月 15 日．山と溪谷社．4,540 円＋税．

植物園にはよく同定依頼の植物が持ち込まれる。一番困るのは，花も実もない，枝先に数枚の葉が付いただけの樹木で，特に野生のものでない場合は全くお手上げの事もある。そんな時に頼りになる決定版の図鑑が出版された。副題に「実物スキャンで見分ける 1100 種類」とあるとおり，本物の葉をスキャンして図鑑にしたもので，これまでの葉の写真による同定図鑑に比べて解像度，質感，立体感に優れ，微妙な色合いや光沢，毛の具合が再現されている。さらに写真上の識別のポイントとなる箇所に，引き出し線をつけて特徴が短く記述されていてわかりやすい。厚さ約 3cm，重量 850g とハンディとしてはずっしりと手応えを感じるが，これ 1 冊持っていれば国内のほとんどすべての樹木が葉だけで同定できる。樹種は，日本の野生種だけでなく，よく

栽培されている外国産種，庭木や公園木として使用される園芸品種も含んでおり，針葉樹の種類も多い。掲載順はAPG Ⅲに準拠し，裸子植物からウコギ科まで科ごとに並べられ，間違いやすいものが隣り合うように配慮されている。例えば，よく誤植されるホザキナナカマドとニワナナカマド，バクチノキとセイヨウバクチノキは見開きの左右に並んでいる。シナマンサクは，その特徴である枯葉が枝に残ったままの花の写真は見かけるが，葉の写真はおそらく本書が初めてはないだろうか。植物園や公園でシナマンサクとして栽培されているものはマンサクとの雑種*Hamamelis intermedia*であることが多いので，本書で葉を確認してみるとよい。野外での植物調査はもちろん，造園や補償業務で樹木同定が必要な人にも必携の図鑑である。奥付発行日は4月15日だが，3月22日から発売されている。 （中田政司）

